

## 抗インフルエンザウイルス薬予防投与の説明と同意書【例示】

### 1 目的

インフルエンザ発症者と濃厚な接触があったと考えられる場合、48 時間以内に抗インフルエンザウイルス薬を予防投与することで発症の確率を下げることが証明されています。

今回、●●●●様はインフルエンザ発症者と濃厚接触があったと考えられるため、発症の予防、施設内感染の拡大を防止する目的で抗インフルエンザウイルス薬の投与を推奨します。

### 2 有効性（添付文書からの抜粋）

#### (1) オセルタミビル（タミフル®）

国内で実施された臨床試験で、インフルエンザ感染症発症率はオセルタミビル投与群 1.3%、プラセボ(偽薬)群 8.5%と予防効果が確認されている。

#### (2) ザナミビル（リレンザ®）

18 歳以上の医療従事者を対象とした国内試験で、インフルエンザ感染症発症率はザナミビル投与群 1.9%、プラセボ(偽薬)群 3.8%と予防効果が確認されている。

#### (3) ラニナミビル（イナビル®）

患者の同居家族又は共同生活者(10 歳以上)を対象とした国内試験で、40mg を単回吸入投与した時のインフルエンザ感染症発症率はラニナミビル投与群 4.5%、プラセボ(偽薬)群 12.1%と予防効果が確認されている。

### 3 安全性（添付文書からの抜粋）

#### (1) オセルタミビル（タミフル®）

内服により悪心、腹痛、下痢など胃腸障害が報告されている。また、まれにショック、アナフィラキシー様症状、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑、肝機能障害、精神・神経症状、血小板減少などの重大な副作用が報告されている。

#### (2) ザナミビル（リレンザ®）

吸入により 0.1%～1%程度過敏症による発疹、悪心、嘔吐、下痢などの胃腸障害が報告されている。また、まれにショック、アナフィラキシー、呼吸困難、気管支痙攣、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑といった重大な副作用が報告されている。

#### (3) ラニナミビル（イナビル®）

吸入により過敏症による蕁麻疹や発疹、胃腸炎、悪心、嘔吐、腹痛、下痢、口内炎などの胃腸障害が報告されている。また、まれにショック、アナフィラキシー、呼吸困難、気管支痙攣、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑といった重大な副作用が報告されている。

---

## 抗インフルエンザウイルス薬予防投与に関する同意書

施設長 殿

私は、抗インフルエンザウイルス薬 \_\_\_\_\_ の予防投与について、  
医師から予防投与の目的、有効性、安全性、使用方法について十分な説明を受けました。説明を理解した上で、

抗インフルエンザウイルス薬の投与を  希望します。  希望しません。

年 月 日

説明者医師名 \_\_\_\_\_

本人又は親権者（署名） \_\_\_\_\_

（続柄： \_\_\_\_\_）